

参考資料

・現地調査概要

整理 番号	施設名	分類		所在地
1	美晴幼稚園	私立	幼稚園	北海道札幌市
2	恵庭幼稚園	私立	幼稚園	北海道恵庭市
3	江戸川区立船堀幼稚園	公立	幼稚園	東京都江戸川区
4	国立大学法人 お茶の水女子大学附属幼稚園	国立	幼稚園	東京都文京区
5	中央区立豊海幼稚園	公立	幼稚園	東京都中央区
6	港北幼稚園	私立	幼稚園	神奈川県横浜市
7	ゆうゆうのもり幼保園	私立	幼保連携型認定こども園	神奈川県横浜市
8	せんりひじり幼稚園	私立	幼保連携型認定こども園	大阪府豊中市
9	あけぼの幼稚園	私立	幼稚園型認定こども園	大阪府豊中市
10	認定こども園 Kids まゆみ	私立	幼保連携型認定こども園	大阪府和泉市
11	はまようちえん	私立	幼保連携型認定こども園	兵庫県尼崎市
12	認定こども園さざなみの森	私立	幼保連携型認定こども園	広島県東広島市
13	国立大学法人 福岡教育大学附属幼稚園	国立	幼稚園	福岡県宗像市

美晴幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
-	-	-	30名	39名	40名	109名

運営形態	私立幼稚園	クラス数	3クラス（3～5歳児の異年齢構成）
所在地	北海道札幌市	構造・規模	本園 RC造2階建 別敷地内建物 RC造2階建
敷地面積	本園 812㎡ 別敷地 10,614㎡	延べ床面積	本園 677㎡ 別敷地内建物 230㎡

（平成29年5月現在）

園の教育方針・特色等

教育方針

差別しない心（自分と同じように他の人やものごとを思いやれる子）
心身ともに健康（どんなことにも挑戦する意欲のもてる子）
夢や希望に向かって努力する（問題に自ら立ち向かい知恵と勇気をもって解決する子）

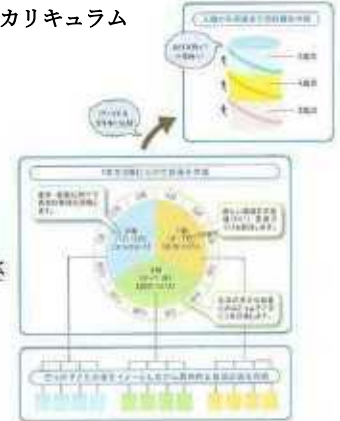
教育カリキュラム

異年齢混合でのクラス編成から、各学年を1サイクルとした、らせん状に構成されたカリキュラム

インクルーシブ教育の推進

ユニバーサルな環境でじっくりしっかり育ちあう

カリキュラム



※園のパフレットより引用

施設概要

本園の美晴幼稚園は、昭和39年築、平成7年改築。

本園の他、3000坪の傾斜地を含む雑木林の敷地（プレイガーデン）にプレイホールガリバーと呼ばれる建物を整備し、本園での活動と併せて、四季を通じて自然との関わりを持てる環境をつくっている。



本園



※園のパフレットより引用

プレイホールガリバー



▲プレイホールガリバーは、建物裏手の雑木林に溶け込むように両面をガラス張りとし、内部は木質化している



▲プレイガーデンの雑木林では、障害の有無に関わらず、豊かな自然環境での遊びを通して、危険を回避する力を身につけていく。



▲プレイホールガリバー正面

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 子供達の安全性を気にするあまり、多様な経験が出来なくなる事もある中、小さな怪我をする事も成長へ繋がるという信念のもと、様々な遊び場が提供されている。
- ・ プレイガーデンの畑、花壇、実のなる木、がけなどは、多様な体験を誘発する自然との触れ合いの場であり、自分たちで遊びを考え出す場となっている。
- ・ 固定遊具がないため、子供が自ら工夫して遊んでいる。特別な訓練ではなく、子どもがしたいと思ってチャレンジしたことが、結果として身体能力を高めることに役立っている。
- ・ プレイホールガリバーのテーブルは、掘りごたつ式で、必要ときに必要な数だけ机を出すことができる。たたんでしまえば、広くホールのようにも使える。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ プレイガーデン内に経営母体を同じくする0～2歳の小規模保育園もあり、普段は0～6歳の子どもが交流できる。また、卒園生プログラムがあり、小学生の子供も活動する拠点となっている等、幼小のつながりを大事にしている。
- ・ プレイホールガリバーは様々な地域の行事、コンサートなどにも使われていて、地域とのつながりが形になっている。



▲プレイホールガリバーのホールでは、演奏会を行うなどの地域との連携にも対応できる。



▲プレイガーデンは、子供の日常的な活動だけでなく、様々な人との交流の場となる



▲プレイガーデンの一部にある菜園では、生活の一部として四季や自然を体験できる



▲こじんまりとした2階部分メリハリのきいた空間により多様な使い方が可能となっている。



▲遊び方の決まっていない遊具では子供が自ら遊びを考え、学んでいく。



▲卒業生や保護者によって作られた遊具で遊ぶ子供



▲プレイホールガリバー裏手の雑木林



▲木質化した建物内（玄関からホールに抜ける廊下）



▲普段は床下に収納されているテーブル等、可変性のある家具は、空間の使い方幅を持たせる。

恵庭幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計

運営形態	私立幼稚園	クラス数	11クラス
所在地	北海道恵庭市	構造・規模	RC造2階建
敷地面積	●●m ²	延べ床面積	1645.16m ²

(平成29年●月現在)

園の教育方針・特色等

教育目標

1. 生命を大切にする子ども (仏/慈心不殺)
2. 正しい生活を営める子ども (法/仏道成就)
3. よい社会を作り出す子ども (僧/正業精進)

教育カリキュラム

教育内容	遊ぶ	学ぶ	育つ
	3歳(年少)	4歳(年中)	5歳(年長)
	自立と自覚の芽生えを培うために遊び込む	生活と習俗の基礎基本を繰り返し学ぶ	自分たちで生活を創り、豊かな表現力を培う
活動スタイル	遊び込み(自由遊び)	遊びと習俗(設定保育)	自ら動く(アクティブラーニング)
学級編成	17~18人(4クラス)	23~24人(3クラス)	17~18人(4クラス)
教員体制	チーム保育(学年8人)	担任制(1クラス2人)	チーム保育(学年5人)
教員配置	園児9人につき1人	園児12人につき1人	園児15人につき1人

施設概要

昭和60年築、平成21年改築。

毎年、少しずつ改修を行い、徴収している施設整備が必ず園児や保護者に還元されるようにしている。



園庭



※園のパフレットより引用



▲毎日のスケジュールはボードに書き出し、子供は自分でそれを見て自主的に行動する。



▲幼児が集中して創作活動に取り組める保育室内のお絵かきコーナー。



▲馬蹄型に並べた可動式の椅子兼棚は用途に合わせて様々な使い方が可能。

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 教育課程で示されている教育内容が行えるように、室内及びトイレの設えを子どもの発達状態によって変え、教育理念・方針に沿った園舎計画としている。外から内部が見え大人が仕事をしているのがわかる事務室、廊下にオープンなトイレ、掘りごたつ式収納可能な机、熱量が目で見える薪ストーブ、U字の移動可能な収納も兼ねる3段の組み立て式座席、など理念に裏打ちされた創意工夫の空間が見られる。
- ・ 園庭は、木登りのできる樹木、花の咲く木、果樹など変化に富む植栽があり、常設のプールだけでなく、夏場には園庭を掘り起こして創る大きな水場、花壇・畑・水田、小川、飲料にもなる井戸の水など子どもたちが自然に関わって自ら探求できる環境があるだけでなく、子どもが知らず知らずのうちに身体を動かすことができるような仕掛けを設けている。
- ・ トイレがきれい、保育室や職員室からよく見えるオープンな空間である。年齢に応じてその誂えも考えられており、子どもたちの自立を促しつつ、教師側の援助もしやすい配慮がされている。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 保護者が送り迎えの際にちょっとくつろいだり、教職員や保護者同士で話したりできる空間があり、これは子育ての支援にとって非常に重要な意味をもつ施設整備である。
- ・ 視察時には、改修により、教員の休憩室作られていた。職員のための空間を充実させることは、今後、幼稚園教諭の働き方を変え、長く勤務して経験を積み、研究的に保育を振り返り、質の高い教育が出来る教員を育てていくことに繋がると考えられる。



▲壁に課題とやり方を記載した紙を貼り、興味を持った子供は自ら読み取り学ぶことができる。



▲家庭には大人用便座しかないことを考慮して、大人用便座と子供用便座両方を設置。



▲保育室の床に収納できるテーブルを設け、用途にあわせて活用している。



▲玄関脇の暖炉を囲む交流スペース。



▲広々とした職員室はガラスの扉で中の様子がよくわかり、保護者にとっても職員と会話しやすい環境となる。



▲子供が自ら土をいじって道を作り、遊びを創造する園庭。



▲夏の間、園庭に重機で穴を掘り、ビニールシートを敷いて水遊び場になっている。秋が来たら埋め戻している。



▲園庭の段差や石も子供の遊具であり、遊び場でもある。



▲田んぼや畑でとれたものを食べることで四季や生活に根ざした“食”を経験できる。

江戸川区立船堀幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
-	-	-	-	105名	105名	210名

運営形態	公立幼稚園	クラス数	6クラス
所在地	東京都江戸川区	構造・規模	RC造2階建
敷地面積	4101.93 m ²	延べ床面積	1523.28 m ²

(平成29年4月現在)

園の教育方針・特色等

教育目標

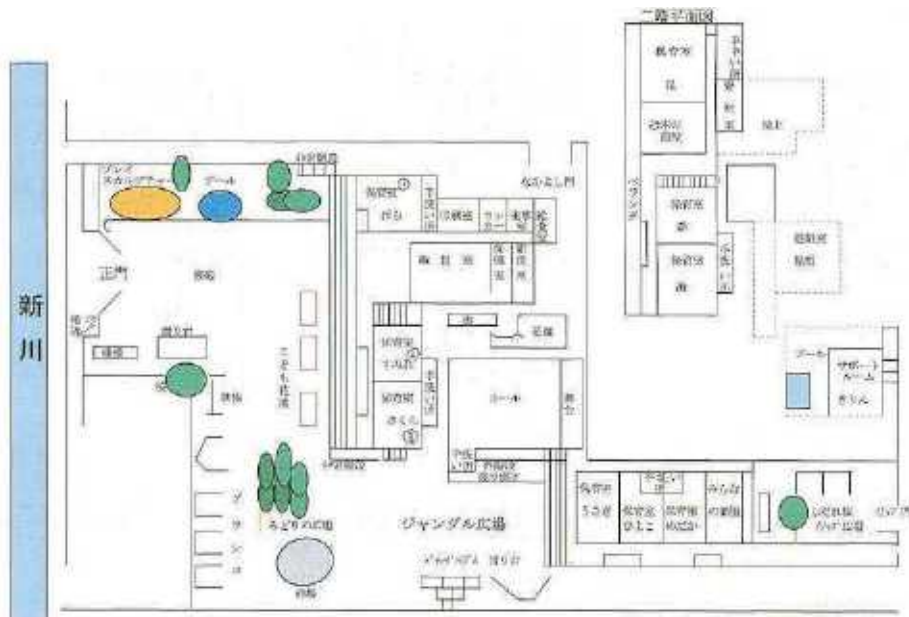
「心も体も健康な船堀の子ども」を育てるために次の目標を設定する。

- ・ 元気な子ども・・・健康な心と体を育てる
- ・ 明るい子ども・・・自発性や主体性を育てる
- ・ 考える子ども・・・思考力や創造力を育てる
- ・ 思いやりのある子ども・・・社会性や豊かな心情を育てる

教育目標を達成するための基本方針

- ・ 足育（あしいく）……健康な体を育てる
- ・ 心育（こころいく）……健康な心を育てる
- ・ 遊育（あそいく）……遊びで豊かな学びを育てる
- ・ 食育（しょくいく）……食で育てる
- ・ 共育（ともいく）……幼稚園・家庭・地域・で育てる 職員みんなで育てる

施設概要



▲樹木や花壇等で変化が付けられた園庭。幼児は思い思いに自分たちの場所を見付けて遊ぶ。

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 園庭が広く、藤棚や、様々な遊びができる遊具、木陰や花壇、大きな砂場など、変化に富んだものとなっており、遊びを通して多様な体験をすることができる環境となっている。
- ・ 絵本の部屋が設けられており、落ち着いて本に親しむことができる環境が整備されている。
- ・ 園内には、魚や亀などたくさんの動物が飼育されており、園児と動物との触れ合いが日常的に行われている。
- ・ 職員室の前に広いスペースが確保されており、遊びの場や雨天時の降園等のフリースペースとして使用されている。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 増築棟では、江戸川区が行うあいあい事業（0歳児からの子育ての支援事業）のためのスペースとして活用。また、2階には、預かり保育用の専用スペースを設けており、地域の子育ての支援センターとして活動を行っている。
- ・ PTAの活動場所として「みんなの部屋」が用意されており、大人数の良さを生かして、幼稚園・地域・保護者が一体となった様々な活動が行われている。
- ・ 近年では、外国籍の幼児も多く受け入れている。



▲保育室内の風景。床に木材を使用することにより、季節を問わず床に座り込んで遊ぶことが可能。幼児が遊びの場を積み木やゴザなどで作って遊んでいる。



▲図書コーナー。落ち着いて本に親しむことができる。



▲教材や教具が整然と並べられた資材室。独立したスペースを確保。



▲多目的に使用可能なホール。



▲部屋の一角に畳が敷かれた、預かり保育用のスペース。



▲園庭から園舎を臨む。園庭と保育室が連続した空間として機能。



▲スケジュールやお知らせなどが記されたホワイトボード



▲見た目も楽しい遊具。

お茶の水女子大学附属幼稚園

【幼児数（定員）】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
-	-	-	40名	60名	60名	160名

運営形態	国立大学法人 附属幼稚園	クラス数	6クラス
所在地	東京都文京区	構造・規模	RC造1階建
敷地面積	約3,300㎡	延べ床面積	1,244㎡

(平成29年4月現在)

園の教育方針・特色等

教育目的

- お茶の水女子大学附属幼稚園は入園した幼児を保育して、心身の発達を助けることを目的とします。とくに、つぎのような子どもに育てようとしています。
 - からだがじょうぶで、元気がよい。
 - 自分のことは自分でする。
 - 友だちと仲よく遊ぶ。
 - ものごとにいきいきした興味をもつ。
 - 思ったことははっきり話し、人の話をよく聞く。
 - 創意工夫したことを楽しんで表現する。
- 本幼稚園は、お茶の水女子大学の附属として、幼児教育の理論と実際に関する研究をします。
- 本幼稚園は、お茶の水女子大学学生にとっての保育、教育の実習と研究の場でもあります。
- 本幼稚園は、研究や保育の実際を公開して、幼児教育の進歩向上に貢献します。

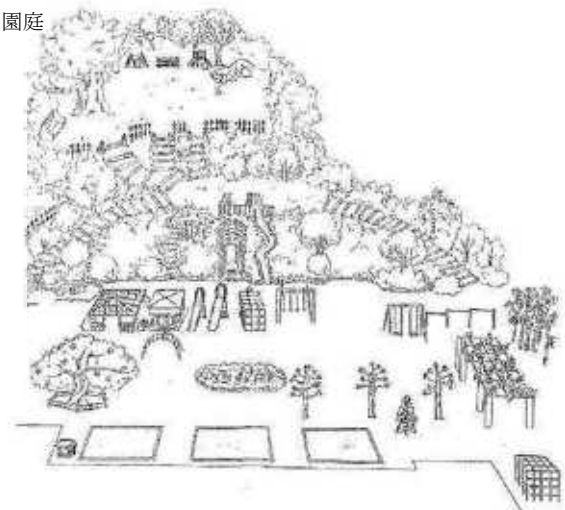
施設概要

平面図



- 施設
- 園舎
総建坪 約1,262平方メートル(約300坪)
保育室(6)・遊戯室・保健室
園長室・職員室・アトリエ
手洗所(男女別)・多目的
用務員室
子どものうち
 - 遊園
総面積 約3,300平方メートル(約8,000坪)
- ①玄 関
 - ②事務員室
 - ③森の組
 - ④川の組
 - ⑤山の組
 - ⑥海の組
 - ⑦林の組
 - ⑧池の組
 - ⑨遊戯室
 - ⑩保健室
 - ⑪園長室
 - ⑫職員室
 - ⑬手洗所(男・女)
 - ⑭アトリエ
 - ⑮子どものうち

園庭



※園のパフレットより引用



▲保育室。家具は建設当時のものも使い、モノの大切さを伝えている。



▲保育室内の流し。人研ぎは建設当時のものを活かして利用している。



▲各保育室の入口欄間部分には、その組をイメージしたスタンドグラスを配している。

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 登園靴・上靴・園庭活動靴の3つを用意し、保育室と園庭の行き来をスムーズにしている。園庭は高低差を生かしつつ、固定遊具や花壇、樹齢がある大木や草原（芝生ではない）で構成された豊かな環境を有し、運動会も園庭を工夫して利用している。
- ・ 研修や研究、日常の保育を通して、クラスや学年を超えて情報共有し、保育者の資質を高めている。
- ・ 広い園庭や園舎での自由な遊びを通して、子どもの危険回避能力の涵養を促し、安全の確保や保育の充実を図っている。
- ・ 家具は創設当時から大切に引き継がれ保育や生活の中で使用されている。また、家具の特徴をいかし子どもの生活や活動に身近に取り入れられる様に、工夫している。
- ・ 外壁はスクラッチタイル張りの平家のコンクリート建築で中廊下式、天井も高く、スケールの高い幼稚園らしさはないが、調度品のスケールが子どものスケールに合わせたもので、違和感はなく、天井の高さとともに落ち着きを与える。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ PTAの活動が活発で、複数の委員会が保育支援を行っている。また、PTA室は園舎北側に確保されている。
- ・ 通園手段は保護者付き添いの徒歩や公共交通機関を使用した送迎で、年長は玄関まで、年少・年中は保育室までの送りとなり、帰りの引き渡しは玄関にて行っている。玄関やコート室は広く配置され、園舎の環境をいかした送迎方法となっている。



▲玄関脇に配されたコート室。コート掛けは創設時から大切に使用されている。



▲入園式や誕生会を行うと共に、日常の遊びの場ともなっている。



▲職員室。家具で仕切られた奥のスペースを更衣スペースとして使用。



▲トイレブースも、あえて建設当時のデザインを残している



▲教材室。整然と整理・整頓がなされている。



▲幅3mの広い廊下も園児の大切な遊びのスペース。お店屋さんごっこが始まったり、異年齢間の交流スペースにもなる。



▲園庭の最上部は自然と触れあえる草原。奥に見えるのは直径170cmのイチョウの大木。



▲運動会も、園庭で工夫して開催している。



▲高低差のある園庭の緑道は幼児にとって格好の遊び場となる。

中央区立豊海幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
-	-	-	85名	83名	76名	244名

運営形態	公立幼稚園	クラス数	10クラス
所在地	東京都中央区	構造・規模	RC造 地上5階地下1階建 (幼小一体型・幼稚園は1階部分)
敷地面積	9,646.66 m ²	延べ床面積	14,189.10 m ² (幼稚園は 2,153.14 m ²)

(平成29年5月現在)

園の教育方針・特色等

教育目標 げんきな子 やさしい子 がんばれる子

今年度の重点目標

重点目標1 心身ともに健康な子どもを育てる。

○新園舎の環境を生かした運動遊び・基本的生活習慣の確立・諸文化に触れ親しむ体験

重点目標2 好奇心旺盛に遊びや活動に取り組める子どもを育てる。

○植育の推進・試行錯誤や表現の喜びが味わえる経験

重点目標3 人とのかかわりを楽しめる子どもを育てる。

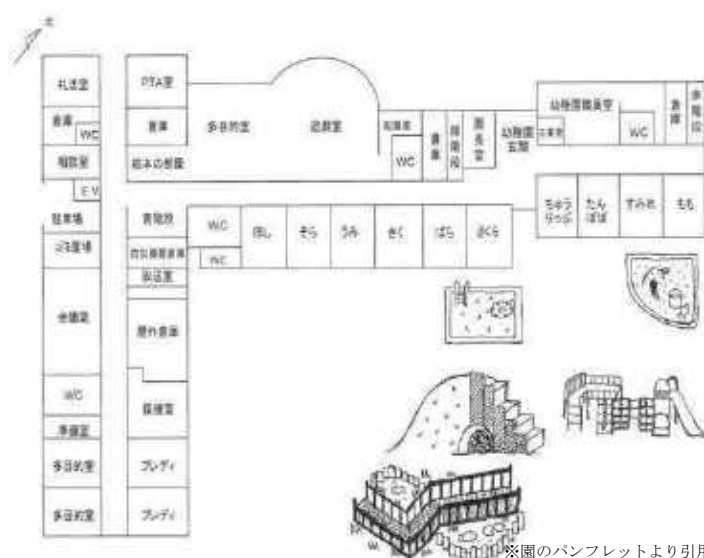
○大規模園の利を生かした活動・異年齢交流・地域や他校種との交流

施設概要

小学校との複合施設であり、園児・児童の増加に対応するため、平成29年に改築。都内公立幼稚園一の規模。

中廊下(約130m)の1階に10室の保育室と絵本の部屋、礼法室(和室茶室)、多目的室、遊戯室を配置。教材室は4室確保され、保育活動の環境整備に努めている。

平面図



※園のパフレットより引用



▲廊下幅は3mあり、様々な活動が可能。



▲広々とした保育室。



▲主事室周辺は廊下・通路と地続きで広い空間のため、異年齢交流の場としても活用している。また園長室はこの前に位置している。

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 保育室は余裕をもった面積を確保する、多目的室と遊戯室の展開性に配慮する、可動式のステージの高さを巧技台の高さに合わせるなど、施設面において、細部まで配慮がなされている。
- ・ 改築時に前校舎（園舎）の反省をいかし、幼稚園と小学校スペースのゾーン分けを図りながら、児童間交流が有機的に機能する様配慮された計画となっている。特に屋外環境は園児や保護者の動線から明確にゾーン分けされており、植栽や固定遊具、菜園などは教育・保育活動にいかされるものとなっている。
- ・ 上部階の3m程のバルコニーが1階幼稚園部分の底となっており、雨天時の活動や保護者の送迎時に有効にいかされている。
- ・ 3歳児のトイレは十分なスペースとベンチが用意され、安心して排泄できる環境となっている。
- ・ 保護者の動線や保育室への視認性などに配慮されている。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 絵本の部屋や多目的室を合理的配慮を要する園児の保育や支援にいかしている。
- ・ 小学校との会議室の共有や管理職の毎朝のミーティング、職員玄関（小学校職員室前）の共有を通して日常から連絡・交流が円滑になされ、児童間交流とあわせ、幼小接続を充実させる環境が整っている。



▲上部階のバルコニーが1階幼稚園部分の底となり、雨天時の活動や保護者の送迎時に有効にいかされている。



▲奥のトラックは幼稚園専有。行事前や活動によって幼小で連絡を取り合い、全面使用することもある。



▲校庭に面した幼稚園用プール。小学生からも遊ぶ幼児の姿を見ることが出来る。



▲校園庭の一角に設けられたプランターではとまとやキュウリを栽培している。



▲風力発電で循環る過されているビオトープ。四季折々の自然に親しむことができる。



▲職員室、手前の薄緑席は非常勤職員用スペース



▲トイレ（男女兼用）、奥は幼児用更衣室で職員室とつながっている



▲一体的に使用できる多目的室と遊戯室、用途に応じてネットで分割可能。



▲職員室奥に設けられた保健室

港北幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
-	-	-	76名	89名	95名	260名

運営形態	私立幼稚園	クラス数	6クラス
所在地	横浜市都筑区	構造・規模	木造2階建
敷地面積	2,819.5㎡	延べ床面積	993.63㎡

(平成27年4月現在)

園の教育方針・特色等

- 保育方針**
- (1) 生き生きした子ども 子ども自身が生きる力を持つ子ども
 - (2) 思いやりのある子ども 人の気持ちや痛みを感じる力を持つ子ども

施設概要

平成26年に増築棟が完成。既存園舎は事務室等として利用。
増築棟の1Fは渡り廊下、2Fはテラスによって各保育室が繋がっている。



※図のパフレットより引用



▲各保育室をつなげるテラスからは普段と異なる景色を見ることができる。



▲半屋外の広々とした渡り廊下は、送迎時に保護者が滞留できるスペースにもなる。



▲木架構の遊戯室。

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 日常生活では行わない、「屈む、這う、伸ばす、転がる、ゆする」などの身体を多様に動かす運動が自然と出来るような園内空間を立体的につなぐ装置、構造や遊具（子供サイズの小部屋や通路を兼ねた立体遊具等）を設置、園舎全体が有機的な遊具となるデザインとなっている。また、テラスは上から見下ろすなどの普段は出来ない空間認識が可能になる。
- ・ 広い半屋外の渡り廊下は、室内外の見通しもよく、子どもたちの遊ぶスペースとして有効である。
- ・ 各保育室の外側の渡り廊下に靴箱があり、子供たちはそこから登降園を行うため、降園時に長時間保育の子が短時間保育の子を迎える保護者を見なくてよいような配慮がされている。
- ・ 二つの保育室の間に共有する教材室があり、子どもに応じた環境の再構成が可能である。
- ・ 園庭は土で木陰もあり、水を使って泥や砂遊びを楽しめる。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 近接する姉妹園（距離約 500m）であるゆうゆうのもり幼保園と機能分担を図りながら、一時預かり保育などを実施。時間外保育も教育の一環と見なし、多様なメニューを用意している。
- ・ 保護者のサークルが活発で、園の教育にも貢献している。
- ・ 保護者の自家用車での送迎や行事参加のため、近隣に100台駐車可能な駐車スペースを確保している。



▲保育室



▲保育室内ロフト部



▲保育室の上部にあるロフトからテラスへ出て行ける。



▲保育室内にあるデンは子供のための小さな空間。



▲園舎の中心となる中庭。



▲遊戯室から中庭は窓を開けると一続きにつながる。



▲絵本室にある階段家具では読み聞かせも可能。



▲渡り廊下のたまり場となるベンチ・手洗い



▲高低差のある園庭を活用し、階段状にデッキを設置。

ゆうゆうのもり幼保園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
6名	10名	11名	61名	61名	61名	210名

運営形態	私立幼保連携型認定こども園	クラス数	●クラス
所在地	横浜市都筑区	構造・規模	RC造2階建
敷地面積	2,433.50 m ²	延べ床面積	1,540.45 m ²

(平成27年4月現在)

園の教育方針・特色等

- 保育方針**
- (1) 生き生きとした子ども 子ども自身が生きる力を持つ子ども
 - (2) 思いやりのある子ども 人の気持ちや痛みを感じる力を持つ子ども

保育の目標

- (1) 愛され、暖かい雰囲気の中で人との信頼関係を広げていく
- (2) 安定した生活の流れの中で欲求が満たされ生活の仕方を身に付けていく
- (3) 豊かな環境の中で、心身を使って、生活・遊びの経験を重ねていく

施設概要

傾斜地を利用して設計者の設計理念と設置者の教育方針（子どもが自発的・主体的に自律性をもって遊ぶなかで成長・発達する）を具現化するために園庭と園舎を一体化して整備。

1階に保育所機能、2階に幼稚園機能を配置。

平面図
B1F-1F



※園のパフレットより引用



▲共用ホールの大階段は遊びの場であると同時に客席や舞台としても活用している。



▲ホールの上に広がる大ネットでは、園内にいながら大きく体を使った遊びが可能。



▲大ネットで遊ぶ子ども

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 2階への大階段を持つ共用ホールは、階段部分を客席とする開かれた広場であるとともに、普段の遊び場としても使える生きた空間となっている。
- ・ 保育室同士が様々な動線で行き来できるように計画され、特に、はしご、らせん状の階段、大ネット、ネットのトンネルなどは、自然な形で子どもの多様な動きを引き出すことにつながっている。
- ・ 各保育室の外側の渡り廊下に靴箱があり、子供たちはそこから登降園を行うため、降園時に長時間保育の子が短時間保育の子を迎える保護者を見なくてよいような配慮ができています。
- ・ 保育に参加する人々が互いのスペースや様子を視認できる空間構成と工夫がなされ、園舎園庭ともに死角をカバーしている。
- ・ 園庭は土で木陰もあり、水を使って泥や砂遊びを楽しめる。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 卒園生を小学生ボランティアとして受け入れており、縦のつながりの中で育つ環境となっている。また、保護者のサークルが活発で、園の教育にも貢献している。
- ・ 外部の遊歩道から地階の多目的室（通常はPTA会室）に、休園日でも入室できる管理としている他、小学生の保育参加や保護者の保育参加を日常的に実施している。



▲3-5歳児のクラスルームには屋根裏部屋のようなプレイコーナーがあり、様々な遊びに取り組める。



▲室内各所に遊具を設置し、自然な形で子供の多様な動きを引き出せるような工夫がされている。



▲職員室は中がよく見えるように大きな窓を設けている。



▲ランチルーム



▲保護者が集まれる地下の多目的室。



▲子供のサイズに合わせた多様なスペースを設置。



▲各教室に直接アクセスする半屋外の外廊下。



▲園庭に向けて広がる大きな木製デッキは汚れを気にせず、のびのびと活動できる。



▲園庭。

せんりひじり幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
6名	20名	24名	125名	150名	160名	485名

運営形態	私立幼保連携型認定こども園	クラス数	18クラス
所在地	大阪府豊中市	構造・規模	RC造3階建他
敷地面積	5944.76 m ²	延べ床面積	3,578 m ²

(平成29年4月現在)

園の教育方針・特色等

教育目標

「わたし」を大切に思う気持ち。「みんな」を大切に思う気持ち。
 -わたしはわたし でも わたしは みんなのなかのわたし-

施設概要



※図のパフレットより引用



▲建物の外廊下と階段、中庭が有機的に結び付いている。

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 十分な広さを有し、サッカーなどの運動ができる人工芝のグラウンドと周囲の幼児の運動機能を育てる固定遊具がある運動場の他、植栽やビオトープを整備した園庭を配置している。
- ・ 一室に保育室面積を70㎡と広くとり、移動式家具を有効に使い子どもの状況に応じて、環境の構成を柔軟に行なっている。
- ・ 教材の収納にあたっては躯体の厚みを利用した埋め込み式の壁を広く取り、トイレや水回りには一台式の洗面台を年齢に合わせて工夫して配置している。
- ・ 敷地内のエントランスにピロティーと中庭を効果的に配置し、保護者の待機場所や懇談スペースを確保している。
- ・ 創立時以来の樹木を活かしながら回遊性のある園舎を整備し、合わせて異学年の保育室を隣接して配置するなど、集団のユニット化を図り相互の関係を深める配慮がなされている。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 地域や保護者の子育ての支援の取組みとして、相談やカウンセリングを受けられる相談室を整備。
- ・ 保護者の保育参加やPTA活動への意識が高く、保護者間の世代間伝承もなされている。
- ・ 幼稚園は全園児が徒歩通園であることから、自転車や自家用車の駐車スペースは広くとられていない。



▲2階庭園（本館2階）
2階、3階からアクセスしやすい配置



▲雨天時にも遊べる園庭前のスペース。



▲遊具「がんばの森」失敗と成功を繰り返しながら子どもがチャレンジする意欲を育てる。



▲夏のメダカ、ヤゴ、冬の氷など四季を感じるビオトープ



▲家具で緩やかに区切られた保育室。



▲家具の高さを低くし、保育者からの視認性と子どもが落ち着く空間のバランスを取っている。



▲読書スペース兼お昼寝スペースの図書室



▲木材がふんだんに使われた多目的ホール。移動式のひな壇により多様な使用が可能。横長で舞台との距離が近い。



▲外部廊下も周遊性をもたせている。

あけぼの幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
-	-	15名	90名	90名	90名	285名

運営形態	私立幼稚園型認定こども園	クラス数	11クラス
所在地	大阪府豊中市南桜塚2-14-7	構造・規模	鉄骨造 4階建
敷地面積	2848,17㎡	延べ床面積	2168,84㎡ (81,04+543,89+836,49+658,70+48,72)

(平成29年4月現在)

園の教育方針・特色等

教育目標

全ての生活から健全な心身を育てる
 全ての生活からよく考える力を育てる
 全ての生活から愛情と自立心を育てる

教育理念

今しかできないこと、今だからできること
 しっかりみつめること、ぎゅっとハグすること
 自分の興味を満喫させて遊ぶこと、思いっきりカラダを動かすこと
 大人みんなで精一杯愛すること、大人も育つこと

施設概要

1954年創立。1989年園舎全面改築。
 2007年預かり保育棟である「南風亭」新築。
 2009年既存園舎を改修し「風の棟」を新築。
 2018年2月「東の棟」を新築。



配置図



※園のパフレットより引用



▲園庭を一望できる外廊下



▲3階から園庭を眺める



▲樹木やパラソルなどで景観に変化をもたせるとともに、適度な日陰が作られている。

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 園庭を囲み3棟の園舎が整備されており、全ての保育室から園庭の樹木を眺めることができる。
- ・ 園庭には、ツリーハウスや保護者の手作り遊具、雨水を利用した井戸、園舎ピロティ部分のアスレチック風遊具で様々な身体の動かしかたを誘発する仕掛けになっている。
- ・ 多様な形状の保育室に移動可能な家具と教材を配置し、幼児が主体的に興味を持った対象への関われる環境になっている。
- ・ 保育室の床は1階がナラ（一番固い）、2階がクルミ（暖かい）、3階がタモ（一番暖かく、クッション性がある。床暖なし）と用途によって使い分けられている。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 幼稚園に付設された0～2歳児対象の保育園と連携・交流しており、保育園修了後は幼稚園型認定こども園である幼稚園に入園可能な体制を整備している。
- ・ 通園バスは運行しているが、半径1km以上に居住している場合のみの利用に制限している。保護者の多くは自転車や徒歩で通園しており、駐輪場を確保している。
- ・ 保護者はエントランスを通り園庭から各保育室へ進み、子どもの送迎を行なっている。園庭は、降園時には、子どもの様子を見ながら、大人が懇親出来る場としても機能している。



▲園庭内には様々な遊具や仕掛けがあり、子供たちが思い思いに遊び込んでいる



▲子供が自分たちで遊び方を考えられるような遊具を置いている。



▲1階にある保育室



▲2階以上の保育室の床は1階と異なる木材を使用し、暖かみを肌で感じられるようなしつらえとしている。



▲読書スペースでは落ち着いた環境で本に親しむことができる。



▲フロア中央に配置された教員スペース



▲デッドスペースを倉庫として活用。



▲体育館

認定こども園 Kids まゆみ

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
26名	33名	33名	35名	35名	35名	197名(定員)

運営形態	幼保連携型認定こども園	クラス数	6クラス
所在地	大阪府和泉市	構造・規模	鉄骨造2階建
敷地面積	4,229.96㎡	延べ床面積	1,224.44㎡

(平成29年4月現在)

園の教育方針・特色等

保育目標

- 子供自身が自ら学ぶ力をつけること
- 自己肯定感を持つこと
- コミュニケーション力を持つこと

理念

幼少期は人としての基盤、基礎を作る大切な時期です。しっかりと心土台が作られるよう、自分でみつける遊びや豊かな体験を通して、決して詰め込み教育を通してではなく、自ら考えられるような環境を設定し、本当の意味での生きる力がもてる子どもを育てていきます。そして、子どもたちにとって本当に大切なものは何かを求め続けていきたいと思っております。

施設概要

- 1981年社会福祉法人慈泉福社会 和泉まゆみ保育園として開設。
- 2003年隣地に別棟整備。
- 2015年4月幼保連携型認定こども園 Kids まゆみとなる。
- 2016年全面改築により新築整備。
- 0~6歳利用で幼稚園部分(内1号認定子ども6名)

平面図



※園のリーフレットより引用



▲エントランスは壁一面が黒板仕様。



▲保育室は家具を活用して、様々なコーナーを作っている。



▲0・1歳児の保育室

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 限られた敷地の中での、子どもの体力向上を考えた結果、高低差をつけた広いスロープを設置し、さまざまな方向から2階や園庭に行けるようになっている。屋上庭園を利用して、2階の0-2歳児もすぐ外へ出て遊べるようになっている。
- ・ 保育室内にも、高低差やロープやネットなどで上り下りできる仕掛けがあつて、幼児が知らず知らずに身体を動かす工夫が見られる。
- ・ 食事室の園庭側の開口部は全面開閉が可能で、テラス空間となり屋外と屋内の親和性を高めている。
- ・ 学齢毎に視認性の高い保育者の作業スペースを確保し、午睡中の事務作業や教材準備に有効に機能している。
- ・ ホールはスキップフロアーで子どもの腰掛をコロセウム型に確保しながら、椅子などの収納スペースとなっている。
- ・ 教材室も開口部を広くとることで大型の遊具の出し入れも容易にしている。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 卒園生の水田の一角を借りて、イネの栽培もしている。
- ・ 相談室を設け、保護者の相談時に対応している。



▲限られた敷地の中で、子供が体を動かせる環境をつくるため、1階の中庭からスロープを通じて屋上庭園へ園庭がつながっている。



▲中庭に設置された遊具



▲吹き抜けのある事務室の上階に設けられたミーティングルームは職員の打合せ等に活用されている。



▲オープンキッチンのダイニングルーム、建具を開放することによりテラスと一体になる



▲事務室



▲多目的ホール、段差は幼児用イス 兼 大人用パイプイス収納BOXになっている。



はまようちえん

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3・4・5歳	計
3名	12名	15名	27名、26名、27名、28名、27名、28名、28名	221名

運営形態	私立幼保連携型認定こども園	クラス数	10クラス（3～5歳児は異年齢構成）
所在地	兵庫県尼崎市	構造・規模	木造2階建、木造3階建、鉄骨3階建
敷地面積	1,714㎡	延べ床面積	1,331㎡

（平成29年12月現在）

園の教育方針・特色等

教育目標

たくましく生活できる子ども みんなと仲良く遊べる子ども 心豊かな創造性を育てる

教育理念スローガン

わたしになる。ぼくになる。（あるがまを許容し、子どもたち一人ひとりが持っている「らしさ」を引き出し、自己肯定感を持てる人になる）

施設概要



▲起伏に富んだ中庭



▲樹木やテントで適度な日よげが設けられている。



▲起伏を生かした遊具

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ ミーティングルームの壁は一面ホワイトボードで、話し合いを円滑に進められるような工夫がされている。
- ・ 自園調理の和食メインの給食である。給食の時間に、管理栄養士が当日使う野菜などの説明をする出前トークがある。
- ・ モーニングテラスキッチンで、旬の食材を用いて子供たちと調理して食べる。
- ・ 保育室は、間をロールカーテンで仕切るだけのオープンなスタイルで、縦割り保育。バディを決めて、年上の子どもが年下の子どもの世話をする。
- ・ 室内では上靴は履かず、子どもは裸足で行ったり来たりしている。
- ・ 園庭は起伏のある形状と雨水を利用した手漕ぎポンプを活用したあそび場を中心に構成して固定遊具は設置していない。
- ・ 広い平地の前庭、起伏のある中庭それぞれの特徴を生かし、様々な屋外活動を行える環境としている。
- ・ 畑やピザ窯は、食育に効果を発揮している。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ コミュニティ・カフェ&ブックスがあり、本格的な焙煎からのコーヒー、ビールを飲みながら本が読める。1週間に1回開店とし、ルールを定めて一般開放している。幼稚園保護者がボランティアで参加。月1回は「はまバル」と称して町内の老人会が開かれる。
- ・ 保育棟の1階はコミュニティカフェ兼図書館となっており、有志の保護者などにより運営されている。3階には親子ひろばを常設し地域の子育て支援の拠点となっている。
- ・ 地域の保護者対象の子育てサークルやワークショップ、講演会などを積極的に実施している。



▲新館のエントランス、1階は厨房。



▲手作りのピザ釜



▲読書&喫茶スペース、ルールを設けて一般開放も行っている



▲エントランス、ぶら下がっているのはタマネギ



▲新館の最上階にある多目的室、テラスと一体に使用可能



▲廊下から保育室への入口はクラスごとになっている。



▲子育ての支援として親子広場を常設している。



▲保育室は3室が一体となっている

認定こども園さざなみの森

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
3名	12名	15名	79名	81名	77名	267名

運営形態	私立幼保連携型認定こども園	クラス数	13クラス
所在地	広島県東広島市	構造・規模	鉄筋コンクリート造・木造 地下1階地上2階建
敷地面積	8,573.06 m ²	延べ床面積	2,039.70 m ² (788.85+352.35+446.9+334.46+117.14)

(平成 29 年 8 月現在)

園の教育方針・特色等

さざなみの森で育つ子ども像

「さざなみ」のようにキラキラ輝く子どもたちを目指し、「自ら考え、自ら動き、自ら育つ」ことを大切にしている。

さざなみの森の保育

子どものもつ力を信じ、待つ “啐啄同時（そったくどうじ）”
保育者は、子ども自らが持つ力を発揮できるように、支援することを心がけている。

施設概要

- ・田園の広がる里山環境で、遊びを中心とした保育を、起伏のある地形を生かした園舎、園庭、周辺環境でおこなっている。

さざなみ幼稚園 昭和 54. 4

さざなみ保育園 平成 23. 4

施設面積 2, 039. 70 m²

光の棟 788. 85 m²

風の棟 352. 35 m²

響の棟 446. 90 m²

水の棟 334. 46 m²

吹の棟 117. 14 m²



▲里山のエッジに建つ園舎



▲自然の起伏を生かした園庭



▲園庭の段差を利用した三段砂場で遊ぶ

教育面や施設面の工夫・取組

- ・ 園舎、園庭だけでなく、里山の周辺環境も含めて保育の環境として考えているため、里山に近接した立地とし、園舎・園地から見える里山風景を大切に、起伏のある地形を生かした建築としている。
- ・ 里山の広場、水田での米づくり、水路の川遊び、畑での果樹栽培、地域の協力者による伝統行事、近隣の農家のヤギやニワトリとの触れ合い、自然探検、など、園から連続した自然豊かな周辺の里山環境を活用。

その他、地域との連携や送迎時の配慮、子育ての支援の取組等

- ・ 保護者の学びや交流の場として、カフェのような子育て支援室やギャラリーを設置。その他、保育士以外にコーディネーターを設ける等、子供だけでなく、保護者や地域の協力者を巻き込んだ「場づくり」「施設づくり」「機会づくり」を行っている。
- ・ 現役を引退した大工を雇用し、園内に作業場を設ける事で、子供が目の前で補修作業や製作過程を見ることが出来る環境を作っている。



▲ウッドデッキが保育室と園庭を繋ぐ装置となっている



▲ウッドデッキは子どもが過ごす日常空間



▲ウッドデッキから見渡す園庭



▲木材を多用した保育室



▲午後の時間異年齢で遊ぶ大きな保育室



▲遊びに集中できる家具で区切られたコーナー



▲地形の起伏を生かした保育空間



▲舞台としても使用できるプレイデッキ



▲豊かな自然に面した半屋外空間



▲保護者もスタッフも集える子育て支援スペース (カフェ)



▲みんなの部屋 (子どもたちとスタッフの共有スペース)



▲みんなの受付 (事務室)

福岡教育大学附属幼稚園

【幼児数】

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
-	-	-	20名	16名	14名	50名

運営形態	国立幼稚園	クラス数	3クラス
所在地	福岡県宗像市	構造・規模	RC造1階建
敷地面積	●●㎡	延べ床面積	656㎡

(平成29年12月現在)

園の教育方針・特色等

教育目標

豊かな心を持ち、自己を十分に発揮し、心身の調和のとれた発達と生きる力の基礎を身につけた幼児の育成

めざす幼児像

基本的な生活習慣を身につけた幼児
思いやりのある幼児
最後まで頑張る幼児

表現力のある幼児
創造力の豊かな幼児
探究心や思考力の豊かな幼児

施設概要

昭和47年と59年に建てられた園舎を平成25年に改修及び一部増改築。
保育A棟と管理棟を解体撤去し、広々とした園庭を実現。



※園のパフレットより引用



▲園舎と園庭をつなぐテラス



▲半屋外空間のエントランス、向かって右側が図書コーナー、左側が保育室



▲保育室から独立して設けられた 図書コーナー



▲広々とした園庭



▲保育室は隣室とつながっている。



▲幼児用トイレ

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議設置要綱

平成 29 年 2 月 20 日

大臣官房長決定
平成 29 年 5 月 10 日最終改訂

1 趣旨

近年の社会変化に対応するため、今後の学校施設の在り方及び指針の策定に関する調査研究を行う。

2 調査研究事項

- (1) 今後の学校施設の在り方について
- (2) 学校施設整備指針の策定について
- (3) その他

3 実施方法

- (1) 別紙の学識経験者等の協力を得て、2に掲げる事項について調査研究を行う。
- (2) 本協力者会議に主査及び副主査を置き、事務局が委嘱する
- (3) 本協力者会議の下に、部会を置くことができる。
- (4) 必要に応じ、(1)の学識経験者等以外の関係者にも協力を求めることができる。

4 実施期間

平成 29 年 2 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日

5 その他

- (1) 本協力者会議に関する庶務は、大臣官房文教施設企画部施設企画課において処理する。
- (2) その他本協力者会議の運営に関する事項は、必要に応じ別途定める。

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議委員

氏 名	職 名
天 笠 茂	千葉大学教育学部特任教授
五十嵐 智 浩	公益社団法人日本PTA全国協議会理事
伊 藤 俊 介	東京電機大学情報環境学部教授
岩 井 雄 一	社会福祉法人せたがや檜の木会理事長
岩 崎 元	成田市立向台小学校教頭
上 野 淳	首都大学東京学長
片 田 敏 孝	東京大学大学院情報学環特任教授
工 藤 和 美	東洋大学理工学部教授
斎 尾 直 子	東京工業大学環境・社会理工学院建築学系准教授
志 村 秀 明	芝浦工業大学建築学部建築学科教授
高 際 伊都子	学校法人渋谷教育学園渋谷中学高等学校副校長
田 原 優 子	佐賀県多久市教育委員会教育長
長 澤 悟	東洋大学名誉教授
中 埜 良 昭	東京大学生産技術研究所教授
野 中 陽 一	横浜国立大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻専攻長・教授
野 本 宏 一	川崎市教育委員会事務局教育環境整備推進室長
樋 口 直 宏	筑波大学人間系教育学域教授
山 重 慎 二	一橋大学大学院経済学研究科教授
山 下 文 一	松蔭大学コミュニケーション文化学部子ども学科学科長・教授

(以上19名, 五十音順, 敬称略)

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議特別協力者

氏 名	職 名
磯 山 武 司	国立教育政策研究所文教施設研究センター長
屋 敷 和 佳	国立教育政策研究所教育政策・評価研究部総括研究官

(以上2名, 五十音順, 敬称略)

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議
幼稚園施設部会の設置について

平成29年3月23日
学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議決定

今後の幼稚園施設の在り方及び幼稚園施設整備指針の策定について、具体的・専門的な検討を行うため、「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」（以下「協力者会議」という。）に以下のとおり、幼稚園施設部会（以下「部会」という。）を設置する。

1. 検討事項

- (1) 幼稚園施設整備指針の改訂案について
- (2) 幼稚園施設に関する事例集の作成について
- (3) その他

2. 実施方法

部会は、別紙の学識経験者等により構成する。なお、必要に応じ、他の学識経験者等にも協力を求めることができる。

3. 実施期間

平成29年4月1日から平成30年3月31日までとする。

4. 協力者会議への報告

部会は、検討状況を適宜、協力者会議へ報告するものとする。

5. その他

部会に関する庶務は、大臣官房文教施設企画部施設企画課において処理する。

**学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議
幼稚園施設部会委員**

氏 名	職 名
浅井 靖弘	大垣市子育て支援部子育て支援課長
東 重満	学校法人東学園 美晴幼稚園 理事長・園長
新山 裕之	全国国公立幼稚園・こども園長会 副会長 港区立青南幼稚園長
木下 勇	千葉大学大学院園芸学研究科 教授
倉斗 綾子	千葉工業大学創造工学部デザイン科学科 准教授
長澤 悟	東洋大学名誉教授
日比野 拓	株式会社日比野設計 代表取締役社長
松村 和子	文京学院大学 副学長、人間学部児童発達学科 教授
山下 文一	松蔭大学コミュニケーション文化学部子ども学科 学科長・教授

(以上9名, 五十音順, 敬称略)

幼稚園施設部会特別協力者

氏 名	職 名
磯山 武司	国立教育政策研究所文教施設研究センター長

(以上1名, 敬称略)

「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」
検討の経緯

- 【調査研究協力者会議（第1回）】
平成29年2月20日 今後の学校施設の在り方について 等
- 【調査研究協力者会議（第2回）】
平成29年3月23日 今後の学校施設の在り方について 等
- 【幼稚園施設部会（第1回）】
平成29年5月26日 今後の幼稚園施設の在り方について 等
- 【幼稚園施設部会 現地調査】
平成29年8月 先進事例等の現地調査
- 【幼稚園施設部会（第2回）】
平成29年9月6日 現地調査報告 等
- 【幼稚園施設部会（第3回）】
平成29年11月8日 改訂の基本的考え方の検討
- 【調査研究協力者会議（第3回）】
平成29年11月16日 改訂の基本的考え方の検討
- 【幼稚園施設部会（第4回）】
平成29年12月25日 報告書案の検討
- 【幼稚園施設部会（第5回）】
平成30年1月29日 報告書案とりまとめ
- 【調査研究協力者会議（第4回）】
平成30年2月15日 報告書とりまとめ